

文教厚生常任委員会報告

令和 3 年 8 月 23 日
委員長 平木 尚子

文教厚生常任委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、令和 3 年 8 月 5 日、6 日に関係部課長等に出席を求め委員会を開催いたしました。

保健福祉部

隣保館

令和 3 年度事業について報告。地域交流促進事業のじんけん平和教室、ひだまりパスポートについて、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて開催を延期。スタンドアローン（一人で立つ）支援事業について、6 月 8 日から 7 月 20 日までの期間は中止。株式会社正興電機製作所から太陽光発電設備及び蓄電システムを寄贈され、隣保館屋上に太陽光パネルを設置、蓄電システムを組み合わせ運用すること。

委員から、じんけん平和教室の応募があった人数についての問いに、各小学校に参加人数の集約をお願いしているところ。多文化共生でのやさしい日本語の缶バッジを作った授業の際の古賀竟成館高等学校の生徒と隣保館との関わりはどの問いに、関わりというほどのものはなかったが、視野を広げて今後の事業に活用していく。第 5 次総合計画のアクションプラン（以下、アクションプラン）策定について、現在どのように着手、検討されているかとの問いに、これから作っていくが、予算と関わるもので、連動したものになるようにと考えている。基本構想（案）では全体の概要、アクションプランの中では詳細な事業について示していくとのこと。

子育て支援課

子ども・子育て支援事業、古賀市合計特殊出生率、保育所等の状況、新型コロナウイルス感染症対策関連の給付金等、子ども家庭系の相談件数、こども発達ルームについて、保育施設の新型コロナウイルス感染状況等について報告。

委員から、古賀市合計特殊出生率について、経営戦略課など保健福祉部を越えて他課にデータは共有されているのかとの問いに、全庁的な発信はしていない。今後の見通しとして、少子化傾向がさらに進むと受け止めているのかとの問いに、推計より出生数は減少しているが、この数字がさらに下がることは捉えていない。つどいの広場利用が大幅に伸びていることについてどのように分析しているのかとの問いに、外出自粛が続き、母親の相談などの声が多く、母親たちの交流やストレスの軽減につながっていると考え。待機児童について、第 4 次総合振興計画の検証結果としてどのように受け止めるのかとの問いに、待機児童ゼロでいきたいが、福岡都市圏の市町村全てで 4 月に待機児童が出ている状態で、古賀市は 4 月にゼロを死守しているのが現状。年間を通して待機児童ゼロは現実的にはかなり高い理想となっている。第 5 次総合計画で待機児童ゼロを堅持する対策についての問いに、様々手段を考えながら対策を講じていく。子どもの見守り体制強化における家庭訪問や食品提供回数についての問いに、家庭児童相談員は頻繁に連絡をとり、訪問している。見守り強化事業における食材の提供は月 1 回。世帯の人数で量を決めて持っていく。回数については月に 1 回の契約なので、夏休みなど月に 2 回に行けるのかは事業者との定例会議で相談していく。産前・産後ヘルパー事業について、利用状況

の問いに、4月から5件程度。支援の内容は上の子がいる場合の育児支援が多い。子ども家庭系の相談について、子どもを危ない状況から避難させなければならなかった事例などはあるかとの問いに、極めて深刻な状況はなかったが、一時保護につながった事例が2件ほどある。成人相談の内容の細分化についての問いに、上位3つの支援状況を記載している。細かい分類はできているので、全体の傾向がわかるように細分化できるか検討すること。アクションプランの策定についての問いに、現在策定中。

健康介護課

ヘルスアップぷらん（健康増進計画（第二次）・食育推進計画）の推進、介護予防事業等の取組、生活支援体制整備事業、特定健診・がん検診の受診状況、令和2年度古賀市健診事業実績、介護保険サービスの利用状況、令和3～5年度版介護保険べんり帳、新型コロナウイルスワクチン接種、ワクチンパスポートについて報告。

委員から、高齢者外出促進事業のルールブックの変更点についての問いに、コロナ禍でイベントが中止になったことの発信が難しいので、行事予定表で対応できるような形に変えた。プレゼントも年に2回抽選を行っていたがマンネリ化し、外出促進の魅力を感じてもらえるように景品をよくして、1年に1回の抽選で何口でも応募でき、外出の動機づけになるような形に見直した。ヘルスアップぷらんにおける目標達成を推進するための対応についての問いに、健康チャレンジ10か条を推進している。コロナ禍で食を介した取組ができないが、管理栄養士等を中心に推進していく。子どもの肥満、痩せについては教育現場や他課との連携が重要になる。食進会や健康づくり推進員の人材育成は、地域の中で入れ替わりのタイミングで人数が減るところもあるが、各小学校区10名を目標として人材育成を行っていく。12歳から15歳のワクチン接種について、どのような検討が行われたかとの問いに、接種に協力いただいている医療機関の皆さんに、開始にあたっての注意点、接種を行ってもらえるかなど入念に打ち合わせをして実施に至っている。自宅療養者に対するフォローを把握しているかとの問いに、保健所からの情報では感染件数のみで個人情報に含まれないため、個人が特定できないので把握できない。アクションプランの策定とヘルスアップぷらんと関係についての問いに、上位計画である第5次総合計画のアクションプランを作成するが、ヘルスアップぷらんなど個別計画と別々の計画ではない。目標とするものは一緒であることを踏まえて、今年度中にアクションプランを作成していきたいとのこと。

福祉課

古賀市秋季戦没者追悼式、サンコスモ古賀屋上・外壁改修工事、第35回古賀市健康福祉まつり、相談対応状況、圏域型地域包括支援センターの状況、障がい者就労等支援、生活保護の現況、福祉タクシー券について報告。福祉タクシー券について、令和4年度から交付対象者の障がい者の等級の要件を、重度障がい者医療制度の障がい等級の要件に合わせて見直す方向で検討を行っているとのこと。

委員から、新型コロナウイルス感染症自宅療養者等生活支援事業の周知についての問いに、感染者が多い中、困っているとの声があれば粕屋保健福祉事務所から制度の説明を行っている。市ホームページでも周知を図っている。ホームページで見つからないとの声があったが、との問いに、改めてホームページに分かりやすく掲載した。周知については再度福祉課で検討する。コミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）の相談内容についての問いに、民生委員を通して、高齢者の認知症状、体調不安、複合的な世帯に対する必要な支援についてなど。その他CSW

の活動について、意見や質疑が集中。福祉タクシー券の変更点についての問いに、要件である障がい者手帳の等級と重度障がい者医療の等級の不均衡について検討課題となっており、身体障がい者手帳、療育手帳と同様、精神障がい者手帳の等級も重度障がい者医療に合わせ、1 級を交付対象とする。約 190 人に影響する。アクションプランと個別計画との関係についての問いに、第 5 次総合計画についても個別計画との連動があり、アクションプランについても必要な事業を網羅していくとのこと。

教育部

教育総務課

令和 2 年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告書、令和 3 年度学校施設整備の主たる工事等の進捗状況、通学路交通安全プログラムの実施について報告。

委員から、古賀北中学校の教室棟大規模改造工事の教室の改修点についての問いに、床や壁面などの塗装、棚の作り直し、黒板の新調、廊下側の扉の交換。廊下についても床のシートの貼り替えなどきれいな状態にしている。塗装については、生徒に影響が少ないものを、試験塗装と法定検査を行い、工事に入っている。通学路の交通安全プログラムについて、危険箇所は市内全小中学校から出されているのかとの問いに、調査を実施し、危険箇所がないという回答を含め全小中学校から回答をいただいている。アクションプランと個別計画の関係についての問いに、アクションプランと個別計画は整合性がとれたものになっており、期間が該当する個別計画はアクションプランの中にも入っている。それを実現するための予算もあわせて検討していく。ICT の利活用の基盤整備の取組については、LAN 線の改修などを含む新たな施策が必要になれば柔軟に対応できるように記載しているとのこと。

学校教育課

不登校に関する状況、いじめ認知件数、ALT による夏休み英会話教室の実施、就学援助支給状況、GIGA スクール事業進捗状況、古賀市立小学校 5 年生及び中学校 2 年生の接遇マナー研修の実施、学校における新型コロナウイルス対応状況について報告。

委員から、あすなろ教室の利用減についての問いに、正式な入級者は 2 人だが、体験入級者は 10 人。校内の適応指導教室に通っている児童生徒が増えているのではないかと。不登校児童生徒の背景や原因、対応策についての問いに、新型コロナウイルス感染症の影響で、無気力、不安という要因が増えてきた。児童生徒一人ひとりに対してチームを組み、家庭訪問をしたり、電話をかけたりしている。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活動についての問いに、市費のスクールカウンセラーは 1 名、県費のスクールカウンセラーは各小中学校に 1 名ずつ。スクールソーシャルワーカーは、小中学校あわせて 1 名。スクールカウンセラーの相談件数について、令和 2 年度は市費のスクールカウンセラーは 191 件、県費のスクールカウンセラーは 736 件。対応記録については学校のスクールカウンセラー業務日誌に記録され、学校に報告。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの面談などの状況は、毎月の報告で学校から教育委員会に報告されている。古賀市立小学校 5 年生と中学校 2 年生の接遇マナー研修の講師についての問いに、外部の専門講師に委託している。GIGA スクール事業における中学 3 年生のパソコン持ち帰りについて、ICT を活用した家庭学習、ネット環境についての問いに、スタディサプリを活用して、自分の必要な学びを主体的に進めていく力を身に付けることに重点を置いている。持ち帰る前に 1 週間試行期間を取り、使い方を十分指導した上で、

夏休みに入っている。平和学習については、機を得た指導のきっかけなど教師から子どもたちに提示することは重要で、ICT を活用してもっと進めることができる分野であり、環境が整った状況でどうやって活用していくかは今後大いに工夫し、教育に生かしていきたい。インターネット環境については、持ち帰った 7 月 20 日時点で全世帯が整っているとは考えていない。相談があれば、低価格、無償で環境を提供できる業者を紹介できるよう各学校に案内している。子どもの見守り強化事業で上がった情報は共有されているかとの問いに、家庭児童相談室を通じた会議の中で情報共有がされている。アクションプランの策定について、10 年後の児童生徒の人数の推計の問いに、現状維持から微減程度と考えている。コロナ禍の運動会の開催日の変更について、幼稚園・保育園との日程調整の問いに、学校行事の変更や調整について変更があった場合は、幼稚園には学校教育課から、保育園には子育て支援課から連絡をし、連携がとれるように対応を行っている。教育の質に関する質疑や協議についての問いに、委員会に報告が必要な場合は学校教育課から、学校へは校長会や教頭会、教育委員会等を通して指導の改善につなげていきたいとのこと。さらに古賀市として教育の質について協議できる場が必要との意見があった。また、子どもの健康課題について深く質疑がなされた。

生涯学習推進課

令和 3 年度古賀市の生涯学習事業概要、クロスパルこがの運営状況、東京 2020 コミュニティライブサイト in 古賀・福津、東京 2020 パラリンピック古賀市採火式、リーパスプラザこが避難訓練、成人式、福岡コロナ特別警報による休館について報告。東京 2020 パラリンピック古賀市採火式について、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めると共に地域共生社会の意識醸成につなげる目的もあることから実行委員会形式で進めてきたが中止。成人式について、令和 4 年 1 月 9 日、リーパスプラザこが大ホールで行うとのこと。

委員から、令和 3 年度古賀市の生涯学習事業概要に記載されている社会教育委員から市長、教育長へ渡された提言書の内容はとの問いに、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から生涯学習笑顔のつどいが中止になり、それに代わる活動として 9 名の社会教育委員がそれぞれの立場で行った 9 つの提言をまとめたものである。地域での子どもの外遊びの現状検証についての問いに、これまで体験活動を拠点型で行ってきたが、スポーツ推進委員が地域に出向いて子どもたちと遊ぶ体験活動に変えていくことになり、はなみ公園で取組が始まった。コロナ禍でスムーズにできなかったが、引き続き課題を見出し、区長等と連携して少しずつ前に進めているところ。種目別のスポーツ人口の把握についての問いに、令和 4 年にアンケートを取る時に考える。緊急事態宣言下での公共施設の利用についての問いに、感染拡大を止めることを最優先に考えているので、全て閉館と考え、実施している。10 年後のまちづくりの上位計画である総合計画とアクションプラン、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、第 2 次生涯学習基本計画との関係や取組について、それぞれ質疑応答がなされた。

文化課

文化事業、歴史資料館事業、文化財係事業、図書館事業、第 4 次古賀市子ども読書活動推進計画、船原ちゃんねる第 4 弾の公開、福岡コロナ特別警報の発動を受けての歴史資料館と図書館の閉館とサービスについて報告。予定していた催事について、臨時休館により今月は全て中止または延期。図書館の臨時休館中の対応について、入館はできないが、出入り口に臨時窓口を開設し、一部サービスを実施。電子図書館サービスについて、ID・パスワード申請の手続きを省略して利用できるよう、臨時休館に間に合うよう作業を進めているとのこと。

委員から、第5次総合計画や第3次文化芸術振興計画の策定に際しての問題意識についての問いに、第5次総合計画の策定にあたり、芸術文化に触れる機会が少ない、興味がないということが多くあることを捉えて、文化力向上事業に取り組む視点を持って策定に当たりたい。船原ちゃんねる動画制作の体制や発信するタイミングなどの問いに、業務の中で数人で企画を立て、制作している。業務の多寡により発信するタイミングは決められないが、できれば3か月に1本程度の発信を考えている。緊急事態宣言を受けての臨時休館による利用減への懸念についての問いに、感染の封じ込めを第一義と考え、開けることは難しい。最近の図書館は、常に多くの人が入っているわけではないが、密になっていると思うような時もある。歴史資料館は声掛けなどで若干利用が伸びている。図書館には利用の問い合わせも多い。電子図書館を利用するターゲット層の絞り込みや電子書籍の業者や近隣図書館などとのネットワークを活用し、より効果的な方法、対策を打ち出していく。図書館の将来の姿、10年後の図書館についての問いに、古賀市の図書館の特色を洗い出し、現状把握していく中で取り組めるところから取り組んでいく。電子図書館や船原ちゃんねるの教育部全体での周知についての問いに、常に連携し、ホームページ、学校のフェイスブック、安全安心メールを使って周知をしていきたいとのこと。

青少年育成課

青少年育成事業、青少年支援センター事業、児童館・児童センター事業、学童保育事業について報告。

委員から、子ども広場の活動場所がコロナ禍で使えなくなり活動ができず、今後の助成金に影響してくるのではないかとの問いに、県・国の補助で委託という形で事業を実施している。今後も広場との協議を続けていきたい。低学年で学童保育にも行かず、家にいる状態の子どもたちの状況についての問いに、働く時間の変更、兄弟児や家族の協力により家庭保育に変更できるケースが多くなっている。青少年支援センターの相談業務の相談対応者、相談者についての問いに、相談対応者は青少年支援センターのセンター長を含め職員4名で、教員や幼稚園・保育士、社会福祉士の免許・資格を持った者が対応。相談者は本人が一番多く、次いで母親。その後は、学校と連携をとりながら支援を続けていくことが多いとのこと。

学校給食センター

給食提供事業及び食育推進事業、地元農産物使用状況、給食調理・配送等業務委託、調理業務に携わる調理師に対する新型コロナワクチン優先接種の進捗状況について報告。

委員から、牛乳パックのリサイクルの状況についての問いに、古紙回収業者による無料回収が難しいため有料になること、牛乳パックを洗って回収することは新型コロナウイルス感染拡大の問題でできなくなったことによりリサイクルができなくなった。今後10年の学校給食センターの施設・整備について、第5次総合計画期間中も現施設を維持管理しながら使うのか、思い切った手だてを考えているのかとの問いに、現施設の長寿命化、施設設備など専門業者と相談しながら計画的に機械の導入、入替を検討していきたいと考えるとのこと。

以上、議会閉会中の所管事務調査報告を終わります。